

コミュニティーバス(仮称:ぐるりんバス)の導入支援

ポートルネッサンス21計画地区の施設や中央商店街などの間を結び、気軽に中心市街地が周遊できるコミュニティーバスの導入について、関係団体等とも協議しながら支援していきます。

共用駐車場システムや共用買物カートなどの導入支援

現在、中央商店街でも買物利用駐車券サービスが行われていますが、今後はポートルネッサンス21計画地区と共用できるシステムを導入するなど、車を利用して訪れる人々の回遊性が高まる方策について、事業予定者などと検討していきます。また、ポートルネッサンス21計画地区と中央商店街との「共用買物カート」の導入支援についても併せて検討していきます。

塩浜地区市街地再開発事業との連携支援

1ゾーンの塩浜地区市街地再開発事業では、県内でも最大級のタワー型高層建築物が準備組合で検討されています。地上約120mの最上階には、青い海や緑の山、基地の街並みなど、本市ならではの景観が一望できる、市民・観光客向けの展望室が計画されており、素晴らしい夕景や夜景が楽しめる場所として、新たな集客につながることを期待しています。今後は各地区の事業が相乗効果を発揮し、地区全体の魅力創出につながるよう、事業者間の連携について支援していきます。

地域貢献策の検討と調整

既存商店街との共同イベントの実施や地場産品の優先活用など、地域と開発事業者が連携し、共に発展できるような施策が実現できるよう働きかけを行っていきます。

融資制度のあっせん等

市内事業者が事業展開を図る際に資金が必要となった場合は、本市の中小企業融資制度の利用についてあっせん等を行います。また、関係機関と協議を行い、制度の拡充についても検討します。

観光物産センターの設置支援

本市には豊かな自然や付加価値の高い特産品、独自の歴史文化など、訪れる人々にアピールしたいものが数多くあります。また、ポートルネッサンス21計画地区は海の玄関口で、JR佐世保駅やみなとインターにも近く、さらに国際航路ターミナルの整備も検討しており、内外からさまざまな交通が結節し、多くの人が集まる要所となっています。本市ではこのような特性を生かし、本市の魅力を積極的にPRするため、観光物産センターの開発施設内への設置を事業予定者と協議しながら支援していきます。

美術館の設置

長崎県の観光統計によると、長崎県美術館(長崎市)の平成17年度利用者数は年間約49万人。単に芸術鑑賞だけでなく、観光と交流の場としての役割も担いつつあります。本市においても県北地区における新たな美術館建設の実現に向け、ポートルネッサンス21計画地区4ゾーンへの立地を視野に入れながら、長崎県と協議を進めていきます。



既存市街地と新市街地を結ぶ歩行者動線の強化

本市の中心市街地には、「交通の軸」となる国道35号、「商業の軸」となる三ヶ町・四ヶ町商店街、「水と緑の環境軸」となる佐世保川という3本の軸線があります。本市ではこの軸線を骨格とし、佐世保駅周辺再開発地区に新しい市街地と既存の市街地、駅、港などを結ぶ5本の歩行者軸を設定し、まちづくりを進めています。このうち港と四ヶ町アーケードを結ぶ区間は、市民が雨に濡れずに行き来でき、既存市街地と一体的なショッピングエリアとなるよう整備を進めていきます。また、検討中の国際航路ターミナルとポートルネッサンス21計画地区を結ぶ区間は、良好な歩行者空間を確保し、回遊性の創出に努めます。

鯨瀬ターミナル周辺の港湾機能の再編

上五島航路の発着場所となっている鯨瀬ターミナル周辺は、整備から20数年が経過し、フェリー貨物の作業効率化や安全対策などが利用者等から求められており、交通対策や港湾施設の改善も必要となっています。本市では、させぼシーサイドパークや朝市のエリアも併せて再編の検討を進め、皆さんが安全で安心できる環境づくりを目指します。また、地域の交流拠点である旅客ターミナルや広場など、みなとの施設を活用した港の駅とも言える「みなとオアシス」(*)を活用した取り組みも今後検討していきます。

※国土交通省が、人々の集う、憩いの港空間を「みなとオアシス」として認定し、住民参加による地域活性化の取り組みに対し、さまざまな支援を行うもの。

回遊性の向上
を目指して!

中心市街地の 都市環境整備構想

ポートルネッサンス21計画地区の周辺では、今回の2、3ゾーンの商業施設の立地のほか、すでに決定し推進中の塩浜地区市街地再開発事業や検討を進めている韓国釜山との国際定期航路の開設などにより、新しい都市機能の拡充がさらに進みます。

また、同計画と同じ中心市街地のエリア内には、にぎわいのあるアーケードに面した三ヶ町、四ヶ町商店街や戸尾市場、トンネル横丁など、従来から市民や観光客が集う施設が点在しています。

本市の中心市街地が今後さらに発展していくためには、こうした既存の施設を最大限に生かしながら、観光客の回遊性向上などを目指して都市環境を整備し、まちの魅力をさらに向上させることが必要です。本市では今後、開発事業者や既存商店街、県など一体となってさまざまな施策を進め、福岡市等への消費流出の抑制、国内外や周辺市町からのさらなる観光客誘致などに取り組んでいきたいと考えています。

国際航路開設による新たな観光客誘致

本市にはハウステンボスを中心にアジア諸国から多くの観光客が訪れており、今後も増加傾向にあります。現在、本市では韓国釜山港と佐世保港を結ぶ国際定期航路の開設に向け、ポートルネッサンス21計画地区周辺を活用した国際航路ターミナルの整備を検討しています。今後は、韓国をはじめアジア諸国からの観光客を積極的に誘致できるよう取り組みを進めていきます。

佐世保港の景観資源を生かした港内クルーズの検討

港を取り巻く山々、旧海軍時代に建設された数多くの歴史遺産、自衛隊、米海軍、造船所など、本市の港には他都市にない景観資源が数多くあります。本市では、これを生かすため「港内クルーズ」を検討しています。今後、観光コンベンション協会や民間の船会社などと協議しながら、事業実現に向けて働きかけを行っていきます。